

電話帳、電報台紙をはじめとして、当社の事業活動において紙資源の利用は必要不可欠です。当社では、森林資源の直接の消費につながる純正パルプの総使用量について2010年に向けた削減目標を設定し、その使用量の多い電話帳、電報台紙、事務用紙について実行管理しています。2001年度の純正パルプ総使用量は2.5万tで、前年度より約22%削減しました。

電話帳における再生紙利用

当社では、1年間に約5600万部の電話帳を発行しており、紙の総使用量は約6.6万tに達します(図1)。発行部数の多さは利用価値の高さを物語っていますが、これだけ紙を使う電話帳だからこそ、環境に配慮した様々な取り組みをあわせて行い(*1)、電話帳事業活動とその環境負荷低減の両立を図っています。具体的な取り組みはエコチャレンジ! 電話帳(*1)のホームページ(下記URL)でも紹介しています。



*1エコチャレンジ! 電話帳
エコという言葉でエコロジー=環境を表現し、チャレンジという言葉で行動姿勢を表現したもので、環境への積極的な取り組みを行うことを宣言するスローガンです。

ホームページ <http://tpnet.nttds.co.jp/networks/kankyo/>



純正パルプの使用量削減

2001年度当初、発行計画などを勘案した上で純正パルプ使用量の目標値を3.0万tに設定しました。しかし、新しく電話を設置されるお客様や引越しされるお客様への電話帳要否確認を徹底することにより発行部数の適正化を図ったこと、用紙を製造する際の高紙配合率(*2)が向上したことなどにより目標値より約0.5万t少ない2.5万tに大幅に改善することができました。昨年に引き続き継続的な改善を図っており、2010年度目標値もクリアしています。

今後は、ハローページの発行方法の見直し(*3)などにより、さらに純正パルプ使用量削減に向けた取り組みを推進していきます。

*2: 電話帳用紙は、木材チップ・写真を原材料とした純正パルプと古電話帳を原材料とした古紙パルプをブレンドして作られています。紙の品質を一定以上に保つためには、古紙パルプに純正パルプをブレンドすることが必要不可欠ですが、極力、純正パルプの使用量を減らすため、製紙会社の協力を得て、古紙パルプの使用量の割合を年々増やしており、配合率60%を達成しています。また、純正パルプの使用についても、森林資源の直接消費を抑えるため、主に家を建てる際に使用された木材の残材などを使用しています。



木材チップ

*3: ハローページでの個人名検索のご利用傾向の変化や環境への配慮の観点から、ハローページを企業名編と個人名編に分冊し、個人名編については事前にお客様のご要望を確認したうえで作成し、ご希望されるお客様のみにお届けする取り組みを2001年7月以降行っています。

図1 電話帳の紙使用量の推移

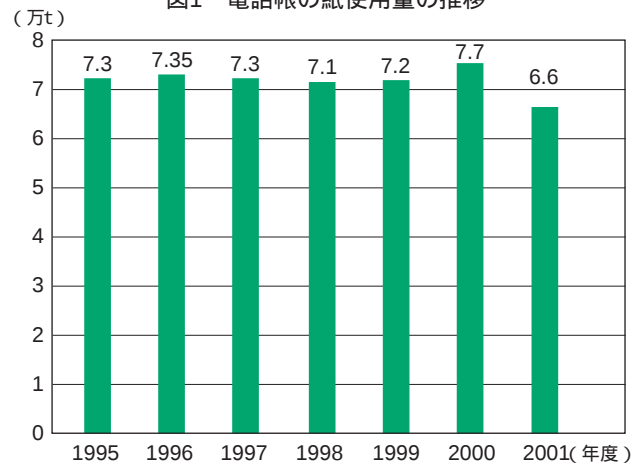


図2 純正パルプ使用量と古紙配合率の推移

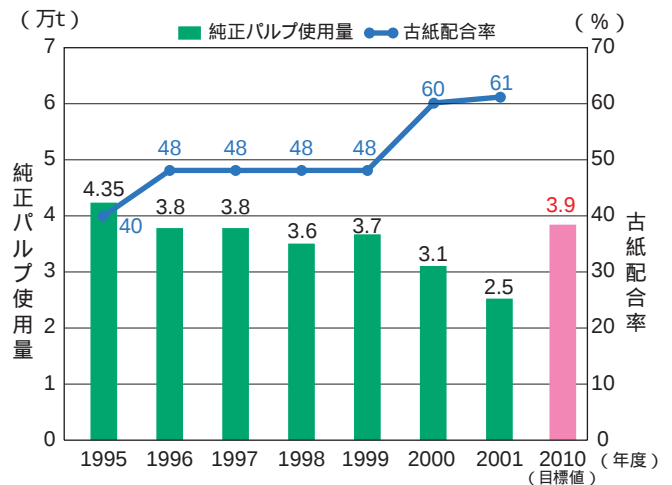
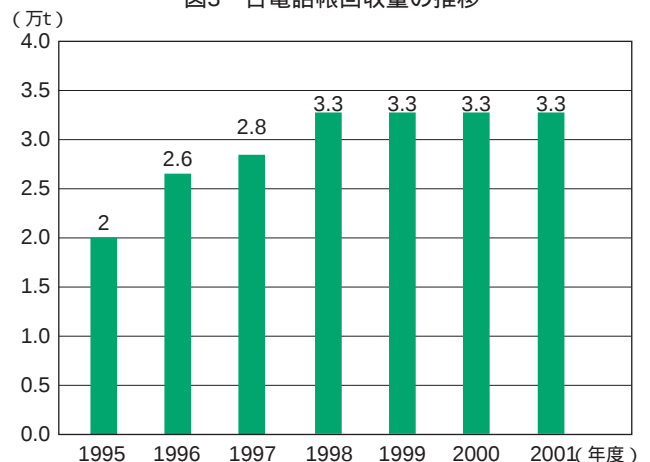


図3 古電話帳回収量の推移



電話帳用紙のリサイクルの推進

(1) 電話帳クローズドループリサイクルシステムを確立

古い電話帳を新しい電話帳用紙に再生する循環型リサイクルシステムとして「電話帳クローズドループリサイクルシステム」を確立しました。

このシステムは、電話帳用紙の製造時に配合する古紙パルプの原材料をこれまでの新聞古紙でなく、古電話帳自身でまかないたいという考えから生まれた新しいリサイクルシステムです。図4に示すように、従来の電話帳作製においては、改版毎に新たな古紙(新聞古紙)を供給する必要があったことから、版を重ねる毎に古紙の使用量が累積していきます。一方、クローズドループリサイクルシステムでは、版を重ねても、原理的に前回使用古紙を再度古紙として循環使用することができ、古紙使用の最小化が図れます。このシステムを運用する前段として、白色用紙を使った電話帳(*4)の発行を2000年2月から始めました。そして、2001年3月にはすべての電話帳をこのタイプに代替することを完了しました。

図5のように、回収された電話帳は製紙会社で電話帳用紙に再生され、印刷・製本を経て、新しい電話帳に再生されます。全国のお客様にご利用いただいている電話帳は、このような仕組みで再びお客様のお手元に届けられます。白色用紙で作られた電話帳を回収し、その電話帳を再生紙として使った新しい電話帳は、2001年9月から発行しています。

*4: 職業別電話帳は米国で「イエローページ」と呼ばれており、その名の通り黄色用紙が使われています。当社の電話帳(タウンページ)も、日本版イエローページとして黄色の染色用紙を使用していましたが、電話帳用紙に再生する場合完全脱色がうまくできないことが問題でした。このため用紙自体を白色用紙に変え、白色用紙に黄色のインクを塗布することで黄色の紙面を作る方式を採用しました。

図4 電話帳クローズドループリサイクル導入の意義

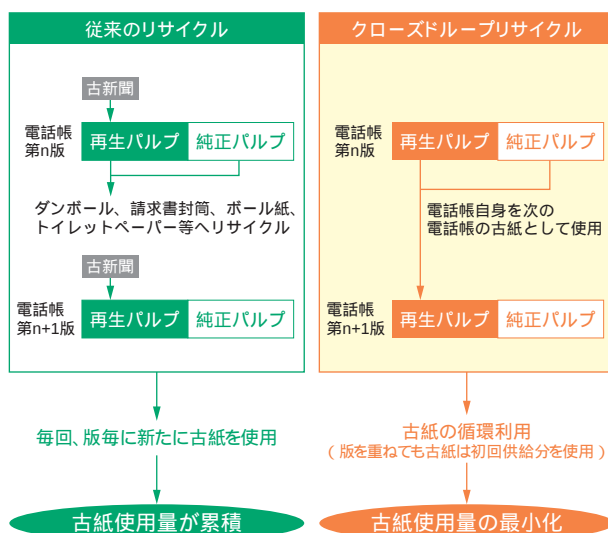
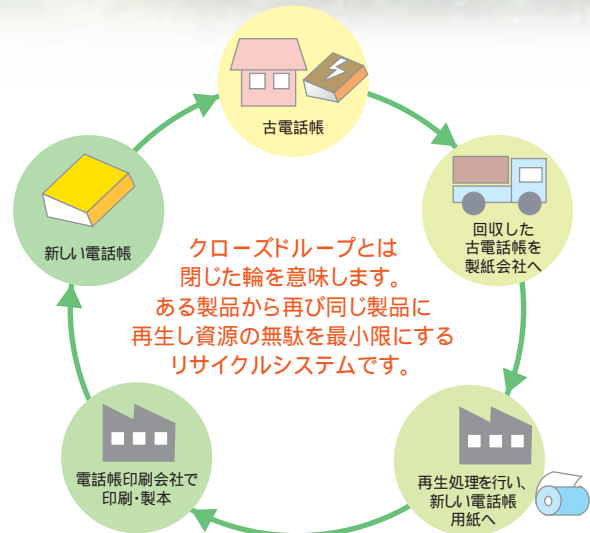


図5 電話帳クローズドループリサイクル



(2) 古電話帳の回収拡大が電話帳クローズドループリサイクル成功の鍵

本リサイクルシステムを進めるうえで必要不可欠となるのが、原材料となる古電話帳の回収拡大です。新しい電話帳をお届けする際に利用期間の過ぎた電話帳の回収を徹底し、ご不在の場合は、タウンページセンタ(表)へご連絡いただければ無料で回収に伺っています。こうした取り組みにより、古電話帳の回収量を高く維持しています(図3)。

今後さらに、これらの古電話帳回収拡大に向けた施策を積極的に進めつつ電話帳クローズドループリサイクルを実施し、新たな紙資源の消費を最小限にすることで、循環型社会の実現に貢献していきます。

表 タウンページセンタへの連絡方法

受付メディア	受付番号など	受付時間	備考
電話	0120-506-309	(平日) 9時~20時 (土・祝) 9時~17時	
FAX	0120-817-548		
E-mail	(北海道・東北・関東・甲信越のお客さま) tpchkd@cocoa.ocn.ne.jp tpcset@silver.ocn.ne.jp (東海・北陸・関西・中国・四国・九州のお客さま) tpchrk@quartz.ocn.ne.jp tpcskk@silver.ocn.ne.jp	24時間	お名前、住所、電話番号、回収希望日を明記の上、送信下さい

グリーン購入の推進

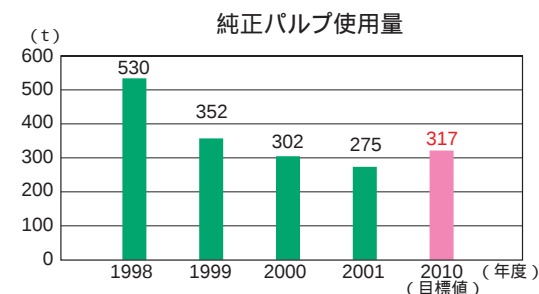
電話帳の作製にあたっては、環境に与える影響ができるだけ少ない原材料を選択するグリーン購入を推進しています。電話帳用紙、背のり、インクなどの購入時には、有害な化学物質を含まないものを選択するよう製紙会社及び電話帳印刷会社に協力を呼びかけるとともに、様々な化学物質調査を通じてチェックを行い、利用者の皆さまに安心してお使いいただける電話帳をお届けする努力を続けています。

電報台紙における再生紙利用

当社では、主に電報台紙の紙部材への再生紙利用促進を図り、純パルプの使用削減に取り組んでいます。電報メッセージをパッケージングする電報台紙は、慶祝・弔慰・一般紙を合わせ42種類(2002年8月末現在)あり、紙や布地を素材としたものなどがあります。2001年度に取り扱った電報通数は1,480万通(全国2,883万通)に上り、紙製電報台紙による紙総使用量は678tです。電報台紙などへの再生紙導入の取り組みとして、紙製台紙を用いた新規商品の開発時や、既存の電報台紙のリニューアル(形状変更)時に古紙配合率を上げるなどの取り組みを進めてきました。

2001年度は、紙製台紙の純正パルプ使用量の年度目標値345t(対前年度実績1%)に対し、使用量実績を275t(対目標値70t減)に抑えて目標を達成し、紙総使用量に対する平均古紙配合率も2000年度の52%から59%に上げることができました。これは、名画電報「ヒマワリ」や七宝電報「らん」の開発、刺しゅう電報「松竹梅」のリニューアルなどへの再生紙利用促進による成果です。紙製台紙の他に、「キティちゃんDENPO」、「ドラえもんDENPO」、「くまのプーさんDENPO」、「ミッキーマウスDENPO」などの布地を材料としたぬいぐるみ型の電報があり、これらの本体素材にはセミダグバア生地又はベルボア生地(いずれも1974年度厚生省令第34号アセチルアセトン(ホルマリン)含有量75ppm以下)に適合したものを使用するなど、環境に負荷を与えない材料を使用しています。

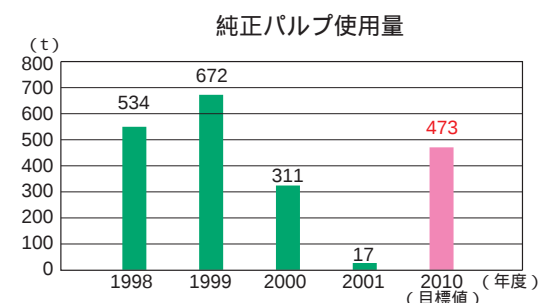
今後も紙を材料としている台紙への古紙配合率を高める取り組みを継続するとともに、「環境負荷のより少ない素材」を使用する電報台紙開発に取り組んでいきます。



事務用紙の純正パルプの使用量削減

事務用紙の純正パルプ使用量の削減については、2001年度は、2000年度古紙100%配合紙の利用促進の継続及び浸透により、純正パルプ使用量は2000年度実績値の311tから17tと大きく削減することが出来ました。

2002年度については、継続した古紙100%配合紙の使用の更なる徹底を図り、純正パルプ使用量0tに向けた取り組みを推進します。



その他の紙資源節減の取り組み

定期刊行物

社外への情報発信や社内啓発のために、毎月発行している以下の広報誌などについては、可能な範囲で再生紙を使用しており、2001年度は46tの純正パルプを使用しました。

定期刊行物の純正パルプ使用量(2001年度)

定期刊行物名	fromNTT西日本	西広場	NTT西日本BUSINESS	合計
純正パルプ使用量(t)	6	29	11	46
紙使用量(t)	15	58	22	95
純正パルプ使用率(%)	40	50	50	
主な配布先	社外	社内	社内、グループ各社	

それぞれの定期刊行物については、P44を参照願います。

請求書

お客様にお届けする請求書や事前案内書は年間約3億通にのぼり、紙使用量は封筒を含め約5,000tになります。紙資源を節減するため、2001年度は請求書で50%、封筒で40%の古紙を配合しました。また、純正パルプ使用量を抑えるだけでなく請求書や封筒自体を削減するため、複数の電話をご利用のお客様には、複数の請求書を一枚に合算したり、複数の請求書を1つの封筒でお送りするほか、ご請求額の内訳書を磁気媒体やオンラインでお送りするサービス(無料)もお勧めしています。